

スローガン

“ 広げよう、 深めよう”

～ 個人として、組織として、可能性を、専門性を… ～

活動方針

- 1) 見えない城づくり(人材確保&人材育成)を進める
- 2) 明星園の発信力を高め多方面での人材活用を進める
- 3) 中長期計画の抜本的見直し(次の5年の計画)を進める
- 4) 財政基盤の確立と柔軟な予算執行体制の礎を築く
- 5) アフターコロナにおける地域に根ざした地域における公益的な取組を再興する

具体的取組み

I 中長期計画に基づく具体的取組み

1. 法人全体として人材確保を進められるツール(ホームページ、広報等)の抜本的な見直しを図り、具体的なアクションを起こす。
2. 人材育成としての人事異動を活性化させていくべく、その在り方について検討する。
3. 外部講師依頼や実習依頼を積極的に受け入れ、明星園の取り組みを内外に発信する。
4. 平成30年に策定した中長期計画(5年スパン)の刷新を図る。
5. 拠点単位で収支バランス(収入の最大化を目指す)が取れ、且つ計画に基づき設備投資等が実施できるよう管理職者のレベルアップを図る。
6. 人材に関する予算の柔軟運用について検討し、職員が意欲的に働くことのできる機会を作る。
7. IoTや介護ロボット等の活用による生産性の向上(投資にあたっての間接的支援)を図る。

- ・ 上半期に広報戦略等を企て実施していく予定であったが、法人内各拠点において新型コロナウイルスがまん延してしまい、その対応に追われ、結論としては年間通じて着手することができなかった。
- ・ 法人内の人事異動については、6月に理事者で構成する理事協議会を開催し議論したが、前述の通り、新型コロナウイルスまん延により、以降の協議の場を持つことができなかった。次年度への継続課題となった。
- ・ 外部講師については、下半期より理事1名が大学の非常勤講師として派遣されることとなった。その結果、法人内各事業所での実習生の受入が活発になり、将来への投資につながった。次年度についても、外部講師の依頼があれば下半期も積極的

に受入れている。

- 中長期計画の見直しについては、7月の管理職者会議にて周知し下半期に作成に着手した。年度内に各拠点分も含めて作成した。
- 拠点区分での営業力経営力の強化を図るべく、法人本部による指導体制を強化してきたが、拠点長を中心に自律的な経営ができつつある。白川明星園拠点においては、ここ数年の課題であった特養部門の稼働率が改善しつつあり、菟道明星園拠点の小規模多機能についても軌道に乗せることができた。一方で白川明星園デイサービスとショートステイについては、新型コロナウイルスのクラスターの余波をダイレクトに受け、8月の稼働率を大幅に落とすこととなった。結局、十分な回復まではつながらず、いずれの事業所も赤字の見通しとなった。また、養護老人ホームにおいては昨年一旦稼働率が回復したものの、稼働率がどんどん下がっている状況であるため、鋭意理事会等で審議し、軌道修正をはかった。これらの事業所については次年度についても引き続き指導強化を続けていく。
- 世界的な資源高により、エネルギー価格の高騰、食料品価格の高騰の影響を受けた。結果、経営的にかなり厳しい状況となった。今後引き続き、国の施策の動向等を注視していかなければならないが、これが続くようであれば法人内のすべての事業の事業継続を図っていくには厳しいと言わざるを得ない。
- 人材予算の弾力化については、未だ内部精査をしている段階であるが、介護職員については法人本部主導でキャリアアップ加算の取りまとめ等を実施した。また、新型コロナウイルスクラスター発生時には、クラスター下における人材確保策として人件費等の柔軟な運用を可能とする通知を発出した。
- 介護ロボットの導入等による生産性の向上については、各事業所の中間総括に委ねたいが、昨今の物価高騰により介護機器の価格が跳ね上がっているため、購入の際は補助金を活用するなどの方策が必須となってくる。伊勢田明星園では、下半期に当該補助金を活用し浴室リフトを導入した。

Ⅱ 地域における公益的な取組み

- 各事業所・拠点において実施している、地域における公益的な取組みを展開、充実させ、社会福祉法人としての役割を社会に向けて発信する。

(以下、実施事業)

取組拠点（事業所）	取組内容
白川明星園 ケアハウスあさぎり 白川介護サービスセンター 伊勢田明星園グループホーム	平安ロマン号 サロン白川との交流・合同事業 神明カフェ なごみカフェ/認知症相談窓口の開設 伊勢田保育園年長組との合同散歩 認知症相談窓口の開設/認知症キッズサポーター養成講座
菟道明星園 小倉明星園 伊勢田明星園 明星っ子こども園	三室戸小学校児童絵画展/明星地藏盆 うたごえサロン/きらめき創作教室 ボランティアルーム開放事業 園庭開放（遊びの広場）/クリスマス会/ピアノの会 卒園児同窓会に伴う施設開放支援

- アフターコロナを見据え、新たな公益的取組を模索し積極的にチャレンジしていく（こども食堂、地域の井戸端拠点、公用車の更なる有効活用等々）※継続課題

3. 法人全体の取組として実践研究(交流)発表会を開催する※継続課題

- ・ 地域における公益的な取組みについては各事業所の事業報告に委ねる。
- ・ アフターコロナの公益的取組みの模索については、理事会においても協議されたが、前述の通り新型コロナウイルスが法人内でまん延してしまったため、計画をしても中止したり、企画の段階で取りやめてしまったりするものがあった。そんな中、こども園や包括等では、児童・保護者向けの企画や地域住民向けの啓発活動が実践された。
- ・ 実践研究(交流)発表会の企画については、年間通じて新型コロナウイルスのクラスター等が発生していたため、実施することができなかった。

Ⅲ ガバナンスの強化に向けた取組み

1. 本部のサポート体制の強化※継続課題

- i 法令遵守状況の本部チェック体制の強化を図る。(実地指導にあたってのフォロー等)
 - ii 省令通知に基づく法定研修を実施する。(事故防止研修等)
 - iii 経営状況が厳しい事業所への貸付を検討する。
2. 情報の開示の視点から令和3年度版「一年のあゆみ」を発行する。
 3. 虐待防止、人権擁護の視点から令和4年度人権学習会を開催する。
 4. 業務執行状況をモニタリングできるよう常務会等を稼働させ現場レベルでの相互牽制機能を高めていく。※継続課題
 5. 世の中の動きに機動に対応できる(資金調達、資産、人事労務管理等)組織態勢をつくる。(管理職会議、常務会、理事会の開催等)※継続課題

- ・ 法人のサポート体制については、菟道相談部門(包括・居宅)において人事課題が生じたため介入した。今回、伊勢田明星園が運営指導を受けることとなったが、結果、報酬返還指導を受けることとなった。当該根拠をより明確にすべく現在、担当課と協議をしているところであるが、厳しい内部チェックをしても解釈ひとつで報酬返還となることが分かったため、運営基準報酬基準の遵守については、今後、より精緻化が求められる。次年度は鋭意、法人内介護保険事業所に内部監査を実施していかなければならない。
- ・ 法定研修については、下半期に虐待防止研修(人権学習会)及び伊勢田明星園主催で事故身体拘束防止研修を実施した。
- ・ 法人本部による貸し付けは、上半期は行っていない。菟道包括及び居宅並びに小規模多機能において本部への借り入れがあることから計画通りに返済できるよう指導した。
- ・ 一年のあゆみについては8月に原稿を取りまとめる予定であったが、新型コロナウイルスまん延のため遅延している。結局次年度に持ち越しとなった。
- ・ 下半期に人権学習会を開催した。
- ・ 年間通じて常務会を3回、理事協議会を1回、管理職者会議を4回開催した。新型コロナウイルスまん延にあたっては理事長常務が小まめに連絡を取りあいトップダウンで通知の発出等を実施した。
- ・ 理事会は年間通じて4回開催した。新型コロナウイルスまん延のため9月開催の定時理事会が開催できなかったため、10月に開催した。
- ・ 世の中の動きに機敏に対応すべく上半期には法人本部主導で銀行引き落としに係る協議を実施し、希望事業所は引き落としができる態勢を整えた。
- ・ また、法人本部主導で建物が老朽化している白川居宅の建物の建て替えの協議を上半期に実施。浴室が老朽化しているナイスライフいせだの浴室改修についても行政と協議した。(ナイスライフの浴室については次年度に実施予定である)